



# 昭和大学江東豊洲病院だより

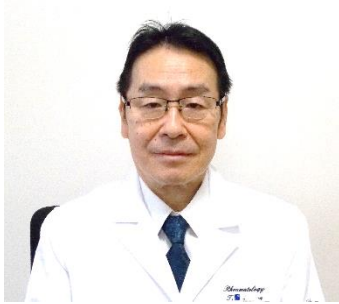
2022年8月号

## 第100号

巻頭言

病院長

かさま つよし  
笠間 毅



毎月発行しているこの病院だよりが100回目となりました。この記念すべき節目に多くの職員のみなさんにも知っていただきたいと思い、病院の成り立ちとこれまでの歩みなどについて簡単に記すことといたしました。

平成20～21年ごろより江東区内外から急性期医療を担う、女性とこどもにやさしい総合病院開設の要望が高まってきました。以前より豊洲地区において昭和大学附属豊洲病院として地域医療を担っていた昭和大学が新規病院の運営を担うこととなり、平成26年(2014年)3月24日に新規に300床の急性期病院としてスタートすることができました。病院の周りには多くの木々や植物を配置し公園の中にある病院として患者さんのみならず地域の皆さんにも癒される環境を提供しています。二次救急医療機関、地域医療支援病院などの指定を受けて、ICUも20床まで拡張し令和元年5月には念願の400床のフルスペックの病院となり、また令和2年には病院機能評価の認定も無事受けることができました。当院の開院時からの特徴として特筆すべきは土日・祝日も開院している“休まない病院”を目指すことでした。患者さんが曜日を選ばずに必要とする医療を限りなく安全に受けられるような環境を作ることを試みており、この新しい医療文化の創造は当院の基本方針にも挙げられています。開院時には医師・歯科医師117名、薬剤師12名、看護師163名、助産師19名にその他の部門を加えて総勢390名以上の陣容で診療開始しましたが、現在(令和4年4月)では医師・歯科医師209名、薬剤師35名、看護師415名、助産師26名など含めて817名の大所帯となりました。今年の病院ワークショップのテーマともなりましたが、一般病棟の混合病棟化を取り入れ職種間の垣根を無くしチーム医療を実践して診療に取り組んでいます。**開院以来、大きな医療事故などもなく安心・安全な医療を提供できているのは職員皆さんの医療や病院運営への真摯な取り組みの結果と考えています。厚く御礼申し上げます。**

令和2年初頭から始まり変異を繰り返しながら進化・変容している新型コロナウイルス感染症ですが、これからは長くこのウイルスとの共存の中、日常生活のみならず医療を遂行しなければならないと改めて認識する次第です。**このコロナ禍にあっても救急を含めた地域医療支援病院としての使命を全うすることが当院に課せられた役割と考えています。**200号が発行される時にはどのような病院に成長し成熟しているのか楽しみです。皆さんの今までも増しての更なるご協力を期待するところです。



### 第100号のトピックス

- 巻頭言(病院長)
- ご存じですか?病院薬剤師のお仕事
- 病院ワークショップ開催
- セミナー開催報告
- ご支援への御礼
- ご意見ご要望
- 編集後記



# ご存知ですか？ 病院薬剤師のお仕事

我々薬剤師は、「くすりの専門職」として常に責任ある行動を心掛け、「安全で安心な心ある医療」を提供し続けることを使命としています。今回は、病気の治療に対する病院薬剤師のお仕事について、ご紹介させていただきます。

薬剤部課長  
柏原由佳

## 病棟でのお薬による治療の番人

入院時の面談で、これまで飲まれていたお薬や過去の副作用・アレルギー歴をお聞きすることで、病気に対する治療状況を把握しています。



入院中は、医師・看護師などの病棟スタッフと連携をとりながら、お薬による副作用の出現を防ぎ、正しく有効にご使用いただけるよう常に目を光らせています。また、退院の際は、ご自宅で正しくお薬を使用できるよう注意点を説明します。



## 抗がん剤調製とお薬の説明

外来化学療法センターでは、薬剤師が抗がん剤を調製しています。また、患者さんへのお薬の説明や点滴中の副作用の確認などを行っています。



## 調剤薬局 保険薬局との連携

外来で処方されたお薬は、地域の保険薬局で調剤・服薬方法について説明されます。その際、保険薬局の薬剤師さんが気付いたこと、患者さんから聞き取った症状や治療に対する思い、他院で処方されたお薬など、病院ではわからなかった重要な情報を病院薬剤師と共有しています。そして、病院薬剤師から医師へ連絡することで、病院薬剤師・保険薬局薬剤師・医師などと多職種で連携して、患者さんへの服薬説明・指導や治療に役立っています。



## 手術・検査前のお薬確認



手術や検査時に、服用していることで出血が止まりにくくなったり、副作用が出やすくなるお薬があります。総合サポートセンターでは、薬剤師が直接患者さんと面談し、現在飲まれているお薬を確認させていただいております。そして、該当薬があった場合、服用を中止していただく期間を患者さんにお伝えしています。



我々薬剤師は、患者さんにとって「頼りかゝいのある薬物治療のサポーター」であり続けたい、そう思って日々邁進しております。



# Pick up

## 病院ワークショップ開催

昭和大学江東豊洲病院では、年に1回、職員による病院ワークショップを開催しています。今年度も6月25日(土)に、新型コロナウイルス感染症対策を行い、医師や看護師など多職種の職員が集まり実施しました。

よりよい病院作りや地域貢献のために、決められたテーマについてディスカッションを行い、それぞれの立場で意見を出し合いました。



4つの班に分かれてディスカッションを行いました



発表の様子

# Report

## 七夕イベント開催報告

6月27日~7月11日まで、1階ロビーに笹飾りを設置しました。患者さんやご家族からの短冊が飾られ、華やかな笹飾りとなりました。



# Report

## ご支援への御礼


新型コロナウイルス感染症の治療にあたる医療従事者に対して、多くの皆様から労いのお言葉や心温まるご支援を頂戴しています。お心遣いに心から感謝申し上げます。

なお、ご支援の詳細は当院ホームページでも掲載しています。

<https://onl.sc/wGWGnJW>



## ご意見・ご要望

ご意見・ご要望	回答・改善策等
<p>短期の入院でほとんど回復食でしたが、食事内容に大変満足しています。特に重湯に付いていた味の濃いコーンスープで、重湯だったガッカリ感が無くて良かったです。</p> <p>美味しかったです。 ありがとう ございました。</p> 	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>術後や絶食後から開始する流動食は、消化管に負担の少ない食事となっております。そのため使用出来る食品が少ないため献立が単一ではありますが、お口に合った内容で良かったです。</p> <p>入院中の患者さんにとってお食事は楽しみの一つであると思いますので、今後も栄養バランスを考え、安全で美味しく召し上がっていただける献立作成・調理に努めて参ります。</p> <p style="text-align: right;">回答部署：栄養科</p>

編

集

後

記

病院だよりが記念すべき100号の発行となりました。巻頭言は笠間病院長、そして編集後記は副院長で編集責任者でもある私に対応することとなりました。

記念すべき100号の編集後記を担当させて頂く幸運に感謝しつつ、編集後記で何に触れようかと思いつくうちに、世界的には新型コロナウイルス感染症、戦争、食糧危機、気候変動、国内では新型コロナウイルス感染症の第7波と猛暑に加え、元総理大臣が凶弾に倒れてしまうということまで発生してしまいました。この様に考えると、つい最近までに日常であったことが非日常と成り、予想すら出来なかったことが次々と発生しています。それでも、私たちは前に進んでいかなくてははいけません。恐れてばかりいてはいけません。今まで、人類は困難であることに対しては様々な視点から洞察し、方策を考え対応してきました。

さて、当院においては、開院から8年が経過しました。当院の開院が決定したのが2010年、実際に開院したのは2014年になります。構想からは既に12年が経過しています。開院の契機から生まれた「女性と子どもにやさしい病院」をキャッチフレーズとして、その目標に少しでも近付けるよう日々努力してまいりましたが、まだまだ道半ばです。これからの10年、20年をどのようにしていくべきか自問自答しつつ、様々な観点から見えない（予見できない）壁を俯瞰（ふかん）するよう努力し、それに向かって立ち向かっていく所存です。

まとまりのない編集後記で申し訳ございません。暑さに負けず、新型コロナウイルスに負けず、この夏を乗り切りましょう。

副院長・周産期センター長 おおつき かつらみ  
大槻 克文



昭和大学江東豊洲病院 <http://www.showa-u.ac.jp/SHKT/>

〒135-8577 東京都江東区豊洲 5-1-38

TEL03-6204-6000(代表)

発行責任者：笠間 毅 編集責任者：大槻 克文



昭和大学江東豊洲病院  
Facebook ページ

